

## 平成24年度東北六県山岳連盟（協会）連絡協議会報告

報告者 清野 孝・平田健治

1. 日 時 平成24年5月12日（土）～13日（日）
2. 場 所 岩手県八幡平市『いこいの村岩手』会議室
3. 出席者 青森県山岳連盟 服部会長・川端理事長・四戸副理事長  
秋田県山岳連盟 佐々木会長・佐藤理事長  
宮城県山岳連盟 濱田会長・館内理事長  
福島県山岳連盟 尾形会長・保坂・三森・引地副会長  
山形県山岳連盟 清野会長・平田事務局長  
岩手県山岳協会 高橋会長・鈴木副会長・武田理事長・佐藤指導部長  
遠藤事業部長・吉田国体推進部長・小山事務局長・中村事務局理事等  
23名出席
4. 内 容 小山事務局長の進行で開会、高橋岩手県山協会長が歓迎と本協議会の開催趣旨について挨拶。  
高橋会長を座長に全体会議が進行、各県出席者の自己紹介。
  - 1) 日山協報告・青森岳連服部会長（日山協理事）より、日山協の近況報告が行われ最近の理事会、臨時総会等については各県から出席されていることや『登山月報』に掲載されてあるので簡単に報告。
  - 2) 平成23年度第38回東北総体の報告・宮城岳連の濱田会長及び館内理事長から報告。
  - 3) 平成24年度第39回東北総体の競技内容について・秋田岳連佐々木会長、及び佐藤理事長から報告。各県宛ての競技要項の文言修正の承認、会場の使用にかかる施設利用申請用紙は秋田県の使用規程利用し5月19日～7月16日まで利用でき、ボルダリングは2ラウンド制をとり実施する。  
審判長は斎藤さん、副審判長は三浦さんが勤めることになる。
  - 4) 日山協理事について・服部理事から提案、25年度4月1日以降公益法人となる。定款の変更も了承されている中で、役員選考規程により東北選出理事は1名となる訳だが、これをどのようにして選出するか提案したい旨説明。  
協議の進行中に日山協事務局尾形専務に問い合わせ、平成25年3月末までは現体制で、4月から5月にかけて暫定措置として現35名を25名に絞り込み、25年5月からブロック理事が1名となる旨説明を受け、選出期限は11月中でも良いのではないか等協議された。  
尚、今回は選出に対するルールを作りたいが、次回11月開催される山形でのブロック会議まで、今回の理事と次期ブロック会議開催県で協議して進めてもらいたいと座長がまとめた。
  - 5) 宮城県より提案の件・東北六県協議会の今後の方向性と選手のメディカルチェックについて、それぞれ各県から現在の状況や活動内容、選手に対する取組内容等が報告された。
  - 6) 福島県から福島岳連では5月から10月までに県内の主要山岳の放射線の調査を実施する旨報告。

翌日13日は午前8時30分から再開。

座長から、各県の指導員の養成状況、トレイルランニングの状況について意見交換があり、各県ともアルペンの指導者の養成は希望者が少なく苦勞しており、更にクライミング指導員のなり手も少なく、特に高体連の先生方に強く要請しているのが現状である。山岳ガイドの組織の成熟と国体の今後のあり方で、今後とも希望者は少ないのではないかと、今年の岩手での講習会には各県とも是非参加して指導者の養成に努めたいとの報告があった。

トレイルランニングに対する取り組みは、岩手県が大きく取り組んでいる。しかし、関係機関からの許認可の取得や指導が厳しくコースの作り方で苦勞している状況や、日山協国体常任委員会での取り組みについて説明と報告があった。東北各県ではまだ成熟している状況ではなく今後の課題として情報の共有に努めることとした。

福島県保坂副会長から北日本海外登山研究会について説明、東北六県新潟を入れて時計回りで勉強会をしている。今年は山形県で開催する予定であり、参加協力を宜しくとの報告があった。

最後に、次回開催から本会議に日本山岳協会に出席要請をして出席してもらうことを確認、それぞれ開催県で手配していくことを了承して会議を閉会した。





会場前で参加者の記念写真5月13日(八幡平市)